



イマジン ロータリー

週報

会 長 鈴木 英人
副 会 長 菱 木 智 仁
幹 事 熱 田 文 彦
広報・公共イメージ
向上委員長 熱 田 寛 明

創 立 昭和 37 年（1962）1 月 13 日
平成 29 年（2017）韓国富平 RC との姉妹クラブ締結
例会日 毎週火曜日 12：30～13：30
例会場 千葉興業銀行八日市場支店（2 階）
事務局 千葉県匝瑳市八日市場イ 2571
TEL 090-3240-6397（幹事）
FAX 050-3033-4137（事務局）
<http://yokaichiba-rc.jp/>



R.I 会長 ジェニファー・E・ジョーンズ
（ウインザー・ローズランド RC、カナダ）
第 2790 地区ガバナー 小倉 純夫（松戸 RC）
第 8 グループガバナー補佐 信太 秀紀（銚子 RC）

No. 2891

第 26 回例会

令和 5 年 2 月 14 日（火）

千葉興業銀行八日市場支店 2 階例会場

例会プログラム

- 点 鐘 鈴木 英人会長
- ロータリング 「奉仕の理想」 斉唱
- 会長挨拶 鈴木 英人会長
- 幹事報告 熱田 文彦幹事
- 委員会報告
- 卓 話 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス
創設者・理事 鬼丸 昌也様
- ニコニコ報告
- 出席状況報告
- 点 鐘 鈴木 英人会長

会長挨拶・・・鈴木 英人会長



皆さんあらためましてこんにちは。出席ご苦労さまです。本日は多くの皆さんにご出席いただき嬉しい限りです。少し鬼丸さんとの出会いを離させていただきます。もう 10 年になりますが、成田コスモポリタンロータリークラブにおられます横山英樹さんから「講演会を聴きに来てほしい」と言われそこで初めて鬼丸さんとお会いさせていただきました。そこでのテーマは確か「僕は 13 歳、職業兵士」というテーマであったかと思えます。当時私には 7 歳の子供がおりまして、講演を聴いて衝撃を受けて帰ってきたことを鮮明に覚えています。また 2 年前になりますが、当クラブでも宇之沢年度、昨年の川口年度に寄付をさせていただきました。いつかこのテラ・ルネッサンスの活動と寄付金がどのように使われているかを皆さんにお伝えしたいと思っておりました。今日ここで皆さんにお伝えすることができますこと、本当にうれしく思います。本日は福岡からいらしていただきました。時間目いっぱい卓話を宜しく願い致します。会長挨拶は以上です。

本日のお客様



認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス
創設者・理事 鬼丸昌也様

幹事報告・・・熱田 文彦幹事



1. 例会場及び時間の変更

*本日はございません。

2. 会報受領クラブ名

*本日はございません。

3. 週報礼状

*PG 諸岡靖彦様より届いております。

4. その他

◇3月12日(日)のIMの返信がまだの方は本日まで宜しく願います。IMに出席される方は13:00 匝瑳市商工会出発となります。宜しくお願いします。

◇前回に引き続き「希望の風」募金をまわしております。皆様のご協力宜しくお願いします。

◇佐倉中央ロータリークラブよりイベントのお知らせです。東日本大震災追悼セレモニーとして「ストリートピアノでつなぐ祈りのハーモニー」が開催されます。参加希望の方がいらっしゃいましたら幹事までお願いします。

委員会報告

*本日はございません。

卓話者紹介

◇国際奉仕委員会 鈴木勝也委員長



認定NPO法人テラ・ルネッサンス理事・創設者であります、鬼丸昌也様です。1979年福岡に生ま

れ、立命館大学法学部を卒業されています。2001年、初めてカンボジアを訪れ、地雷被害の現状を知り、同年10月、在学中にテラ・ルネッサンスを設立、2002年社団法人日本青年会議所人間力大賞を受賞されています。地雷・子ども兵や平和問題を伝える講演活動は、学校、企業、行政などで年100回以上されています。遠い国の話を身近に感じさせ、ひとり一人に未来を創る力があると訴えかける講演に共感が広がっております。公職といたしまして、日本小型武器行動ネットワーク運営委員、公益財団法人京都地域創造基金理事、特定非営利活動法人京都子どもセンター理事、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター理事長についておられます。

卓話

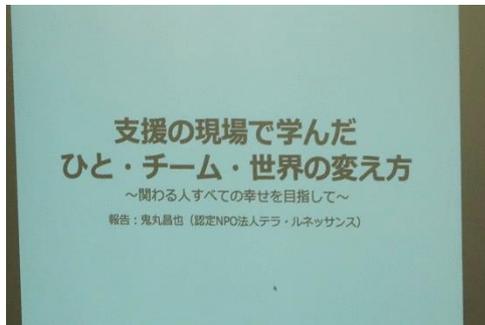
認定NPO法人テラ・ルネッサンス
理事・創設者 鬼丸昌也様

卓話テーマ「平和な世界を築くために
今、私たちにできること」



皆さんこんにちは。先ほどご紹介をいただきました認定NPO法人テラ・ルネッサンスで理事をしております鬼丸と申します。先ほど最後にご紹介いただきました国際協力NGOセンターで昨年の9月から理事長を拝命しております、こちらは私たちのように海外で支援をする、国を超えた国際的な問題に取り組む団体のことをNGOと言います。最近トルコとシリアで大きな地震があり、3万人を超える方が亡くなっていらっしゃいますが、そのような所で支援活動をする団体のことをNGOと言います。日本の93のNGOが加盟している業界団体が国際協力NGOセンターでそちらの理事長を昨年の9月から拝命をして、テラ・ルネッサンスという自分たちの団体だけではなく、海外への支援をもっと日本人ができるように様々な活動をさせていただいています。

八日市場ロータリークラブさんには、テラ・ルネッサンスが20周年を迎えたときにご寄付を頂戴いたしました。本当にありがとうございました。改めて感謝を申し上げます。その時のご寄付をどのように使わせていただいたかも含めてテラ・ルネッサンスという私たちの団体の取り組みについて少し今日はご紹介をさせていただきたいと思います。スライドをご覧になりながらお話を聞いていただければと思います。



テラ・ルネッサンスはもともと22年前に私が大学4年生の時に作った団体です。最初はカンボジアという国の地雷の問題に衝撃を受けて「自分には何ができるんだろう」ということで地雷除去に臨む技術もありませんし、地雷除去の為に多額の寄付のできるお金持ちの家に生まれたわけでもありません。ただ、「自分がカンボジアに行って、見てきた地雷被害の悲惨さや地雷という武器の問題について日本人に日本語で伝えることはできる」と考えて日本に帰国して10人知り合いを集めて報告会をはじめ、諦めずに少しずつ講演の輪が広がり、おかげさまで、22年間で約22万人のかたに話を聞いていただくことができました。中には支援をしたいという方や一緒に働きたいという方がでてきて、今のテラ・ルネッサンスの活動になっています。今私たちがどのような国で活動しているかという、アジアでは2か国で、カンボジアとラオスです。ラオスではクラスター爆弾という爆弾による約3割の不発弾として残っています。ラオスという国の、私たちが支援している場所では住民一人当たり2トンの爆弾が落ちたという計算になります。今でも不発弾にふれて亡くなる人が多いです。なので、地雷や不発弾をカンボジア、ラオスで取り除いたり、貧しいがためにそれが埋まっている場所に行き田畑を耕さなければならぬので、様々な技術訓練や商売の仕方などを教えて収入を上げることで不発弾にふれるリスクを減らすという活動をしています。アフリカでは3か国で子ども時代に兵士だった人たちや戦争で傷つけられた女性たちへの職業訓練、文字の読み書きを教えたりしています。そしてもう1年になりますが、去年の3月からウクライナの西側

で支援活動をしています。現在世界7か国で活動をさせていただいています。



今日は、あらためて私たちの活動のメインをお話させていただきます。それは「子ども兵」という問題です。私たちが活動している国の中にアフリカの「ウガンダ」という国があります。



数年前、鈴木会長と鶴澤さんに行ってくださいました。ドバイやドーハといったアラブの国を乗り継ぐとアフリカのほとんどの国に行けます。ウガンダという国ではウガンダの北側で23年間戦争が続いてきました。国の中での内戦です。ウガンダという国の北部で続いた内戦で戦っている一つのグループ（武装勢力）がたくさんの子供を誘拐して兵士にしていました。18歳未満の子供を誘拐して兵士にしていたんです。どのぐらいの数かというと大体3万6千人です。私たちはカンボジアという国で活動を始めたときにたくさんの地雷の被害者に会いました。地雷で被害を受けた人たちの中には子供時代に兵士だった人がたくさんいました。話を聞くと、とても過酷な体験をしたことでその時の心の傷がいまだに残り、体の障害も残っていました。子ども兵というのは大変な問題だという事を2003年に気付きました。子ども兵の問題を知ったことで何か取り組みができないかと思いました。何か取り組みをするためには子ども兵について正しく知らなければなりません。しかし日本には子ども兵の情報はありませんでした。子ども兵の問題に取り組む団体はほとんどないからです。なので、どうしたかという現場に行こうと思いました。現地に行き、子ども兵だった人に話を聞いてみようと思ったんです。どんな

問題を抱えているか、どんな悲しみがあるか、それを聞いてみないとどんな支援が必要かわからないと思ったので、ウガンダに行きました。2004年2月に初めてウガンダへ行きました。ウガンダの北部へ行き、8人の元子ども兵士に出会ったうちの一人が彼です。



12歳の時に「神の抵抗軍」という武装勢力に誘拐され、兵士になるための訓練を受けます。訓練を受けた後にテストがあり、テストとは自分の生まれ育った村を襲いに行かせることです。なぜかという残虐な行為を近親者にさせることで人を傷つけることに抵抗がなくなるようにするためです。もう一つの理由があります。それは脱走をさせないためです。自分の生まれ育った村で残虐な行為をさせられるともうここには帰れないと思わせるためです。皆さんもお子さんやお孫さんがいらっしゃると思いますのでご想像いただけたと思いますが、子供って親に認めてほしいですよね？孫だっておじいちゃんおばあちゃんに認めてほしいし、会社の社員さんだっただけだと思います。人には誰かに認めてもらいたいという承認欲求があります。子ども兵も一緒です。ただ子ども兵と皆さんのお子さん、お孫さんとひとつだけ違うことがあります。それは何かというと、この子ども兵の周りにいる大人はすべて武装勢力の兵士です。大人の兵士が子ども兵を認めてあげるには2つしか基準がありません。1つは、ほかの子ども兵より多く人を傷つけるか、もう1つは他の子ども兵より物を多く盗んでくるか。大人の兵士に認めてもらうため、結果大人の兵士よりも優秀な兵士になります。だから子ども兵を未だに世界中で25万人も使っています。最近ではウクライナ戦争で少し増えています。

彼もそうでした。自分の生まれ育った村へ襲いに行かされました。そこには彼の家がありました。そして彼のお母さんがいました。大人の兵士は彼の目の前にお母さんを引きずりだしてきます。そして「その女を殺せ」と言いました。彼は嫌がりました。そうすると銃の反対側でボコボコに殴られました。するとこういう風に言われました。

「わかった。お前がどんなにその女を大切にしているかわかった。だったらその女の腕を切りなさい。そうしなければその女もお前も殺す」と言われました。腕を切り落とさないと自分もお母さんも殺されてしまうと思った彼はその通り実行します。僕らが彼と出会った2週間前、奇跡的に彼はお母さんと再会しています。スライドをみていただくとわかりますが、彼は傷ついています。傷ついた兵士は戦闘の邪魔なので置き去りになります。そこをウガンダ政府軍が尋問の為に救出します。病院に運ばれます。そこにたまたまお母さんが入院していました。お母さんと再会した時のことを私たちにこう語ってくれました。「僕はお母さんが自分のことをどう思っているかすごく心配。でもお母さんはこう言ってくれました。大変だったね。つらかったねと。僕がやってきたことを全部聞いてくれました。でも僕にはわかる。お母さんは以前と同じようには僕を愛してくれない。受け止めることもない。抱きしめてくれることもない。だって僕はあんなことをしてしまったから」そういった彼の年齢は当時16歳でした。日本で言えば高校2年生です。

なんでこんな子ども兵が世界に存在するのか調べてみました。大きく分けて3つ理由があることがわかりました。



一つは子供が素直だからです。麻薬やアルコールや宗教や信仰やイデオロギーで洗脳しやすいからです。今日は詳しくお話できませんが、皆さんがお休みの時に映画を2つぜひ見てください。1つはレオナルドディカプリオ主演の「ブラッドダイヤモンド」ともう1つ「風立ちぬライオン」です。この2つの映画の特徴は何かというと両方とも子ども兵がテーマになっています。子どもたちが麻薬を使って洗脳されて地雷原を歩かされるというシーンがありますが、実話です。子ども兵が存在する大きな理由2つ目は武器が小さく軽くなったからです。子どもでも扱えるんです。こういう表現をしていいかわかりませんが、独り言のように言いますが、武器は儲かります。使い切ったら新しく買うしかありませんから。余談ですが、

ウクライナへのロシアの軍事侵攻があり、軍事侵攻をしたロシアはもちろん非難される存在ではありますが、もう一つ事実として、西側諸国はウクライナに大量の軍事援助をしました。ウクライナという国を守るために当たり前のことかもしれませんが。結果どうなったかという昨年末には西側諸国の軍隊の倉庫が空っぽになりまして、空っぽになるとどうなるかという需要というニーズが生まれます。ウクライナ戦争以降、イギリスとアメリカの軍需産業の株は一回も下がっておらずひたすら上がり続けています。まだ上がります。ロシアとウクライナの戦争はまだ折り合いがつきません。そのように武器がまだまだ商品・商材として扱われています。結果子どもでも扱えます。子どもが戦闘の主人公になります。ロータリーでは2月は紛争予防月間と伺っています。なのでぜひ3番目の話をさせていただきたいと思います。何をお話したいかと言いますと、アフリカにコンゴという国があります。皆さんはザイルという名前でご存知かもしれません。テラ・ルネッサンスが今ウクライナと同じくらい支援に力を入れている国です。皆さんの資金を使わせていただいている1つがコンゴという国です。コンゴという国では20年以上戦闘が続いています。皆さんPKO（国連平和維持活動）をご存知でしょうか。世界で一番展開している国はどこかというアフガニスタンでもパレスチナでもない、このコンゴという国です。コンゴに3万人のPKOが展開していてもまだ戦争が終わりません。



赤色の地域が非常に危険な地域だといわれていて、テラ・ルネッサンスは東側と真ん中で活動する日本で唯一のNGOです。赤色の地域というのは日本の外務省の退避勧告地域と呼ばれています。簡単に言うと日本人は行かないでねという場所です。最近ではデヴィ夫人がウクライナに行き騒ぎになりました。これはウクライナが退避勧告地域だからです。この退避勧告地域で活動すると、一つだけ困ることがあります。何かというと、日本の外務省やJICAの助成金や補助金の対象になりません。なぜかという退避勧告地域なので日本

人は行かないようにという立場が優先されるからです。皆さんご想像いただけると思いますが、このような地域だからこそ支援が必要です。今、紛争があって、今苦しんでいる人がいるところへ支援の手を差し伸べることが大事なことだと考えます。もう一言申し上げると、ヨーロッパやアメリカのNGOや国連機関の人たちに「日本人は口だけだね」と言われます。「平和や責任もって安全保障に取り組みたいというけど、現場にこないじゃないか、今苦しんでいる人のところに来ないじゃないか、軍隊や武器を派遣する前に人が来なさい。そうしないと地位がどんどん落ちていくよ」と24年間ずっと言われ癪なのでウクライナでもコンゴでも活動が続けさせていただいています。これも皆さんからのご寄付があったからです。私たちが理解して下さり、託して下さったお金があるからこそ、そのお金を使って、もちろん自分たちで安全管理をしてリスク分析もしたうえで現場で支援をすることができます。民間の力は偉大です。皆さんの支援があったからこそ、今誰も手を差し伸べることのない人達に手を差し伸べることができました。

少し話を戻したいと思います。コンゴの内戦は未だに激しく続いていて、私たちが支援している近くの村ですが、武装勢力が襲撃して6千人の村人が散り散りに逃げて誰一人いません。生まれて初めて思いました。人がいない町にいないことがこんなに怖いことなのか。ちなみにコンゴいう国には30くらいの武装勢力があって、いまだに戦い続けています。先々週もある村で252人が虐殺をされたという事がありました。ちなみにこの村を襲ったコンゴの武装勢力が一番最初にターゲットにした施設は病院です。この村では38人が亡くなりました。3分の2は生まれたての赤ん坊と赤ん坊を抱えていた女性たちになります。コンゴでの支援は大変です。これは支援をする村に行く途中の道ですが、道路が赤土なのがわかりますか？



どういうことかという公共事業ができません。公共事業をしていると襲撃の対象になるからです。私たち NGO にとって、道が舗装されているかどうかというのは支援をするという上でも、自分たちの安全を確保するという上でもとても重要です。リスクが高いことがお分かりいただけると思います。でも何とか皆さんのおかげで活動を続けることができています。

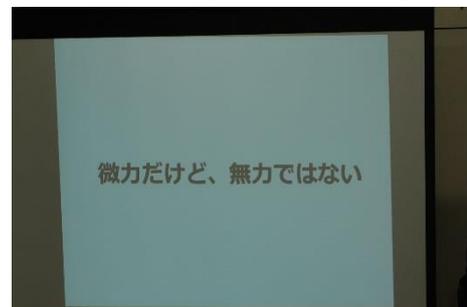
なぜコンゴでこんなに激しい戦闘が続いているのでしょうか。コンゴの場合はとてつもなくわかりやすい原因があります。レアメタルです。コンゴには他にも金・プラチナ・ダイヤモンドといった宝石や貴金属、石油やウランといった資源がコンゴにはたくさん埋まっています。コンゴの内戦はコンゴ人だけでなく、フランスやアメリカ、中国、ロシア、最近では北朝鮮からも様々な人がやってきてコンゴで戦っている人に武器を渡します。火に例えると、紛争という火にどんどん武器やお金といった薪を投げ込んでいくと激しく燃えていきます。ふと思いました。コンゴの紛争の原因であるレアメタルなどは一体だれが使っているんだろうと考えると「僕らなんだ」と気づきます。正確に申し上げます。僕はこう思いました。「僕なんだ」ショックでした。自分の暮らしの中に子ども兵を増やすことの原因が含まれているかもしれない、当事者かもしれない。自分がしていることは偽善なのではないか。そう思ってしまいました。自分ができることは考え続けることでした。一人で「自分には何かできるんだろう」と考え続けました。自分たちが使っているものに対してどこできて、どのような資源を使って、だれが運んできたのかという興味関心を持つことはできるかもしれません。もう1歩踏み込んで買うものを変えてみる、企業であれば調達先を変えろという事もできるかもしれません。何を申し上げたいか。とても簡単なことに気付きました。「僕らが変わればいい。僕が変わればいい」僕が何を選んで、僕がどうやって生きるかが、コンゴの紛争のことや元子ども兵士を増やすことや世界の様々な問題を解決していくことにつながっていくんだ。という事に気付きます。日本製のスマートフォンやタブレットはコンゴの鉱物資源は一切使っていません。アップルは世界中の紛争に関連する鉱物資源を使わないと宣言して今も守っています。なぜそうしたか2つ理由があります。1つは消費者の声です。もう一つはお金の流れが変わってきたからです。ESG 投資という言葉聞いたことがあると思います。環境や社会に配慮した事業をしていないとお金が借りられないなど国際社会での流れになっています。日本でも最近、商工中金さんが

SDGs という文脈で事業をやると融資の利率を下げるといった事を始めました。お金の流れが変わると地域や国がいっぺんに変わります。

今日は皆さんの前にブラックサンダーが配られています。なぜブラックサンダーかというチョコの原料はカカオ豆からできています。カカオ豆を作る農園では、子供たちが強制的に奴隷のように働かされています。2018年に有楽製菓さんの会長さんが豊橋の倫理法人会で講演を聴いてくださってその後連絡が来ました。子どもを強制的に働かせる児童労働をやめさせる団体を教えてくれという事でした。そして主力商品のブラックサンダーのカカオ豆は児童労働をしていないものに切り替えるという事を2018年に決めました。2022年9月をもってすべてのブラックサンダーの原材料は児童労働をしていないものになりました。

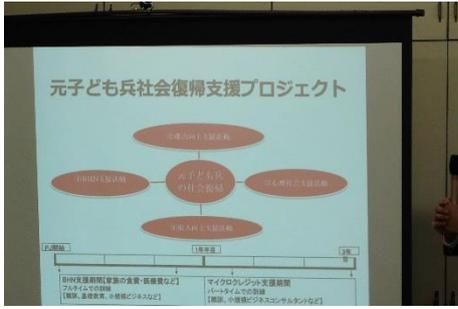


去年の9月のこのニュースはすごい勢いで拡散され、社会全体から応援されます。社会は会社や企業を応援する理由を探しています。サービス、商品が良いのは当たり前でさらにその会社を応援する理由が凄く欲しい。そういった意味合いでも社会に関わることはこれからの企業や団体にとってはすごく重要なことではないかと考えています。私たちは死ぬまでこう申し上げます。



「微力だけど無力ではない」

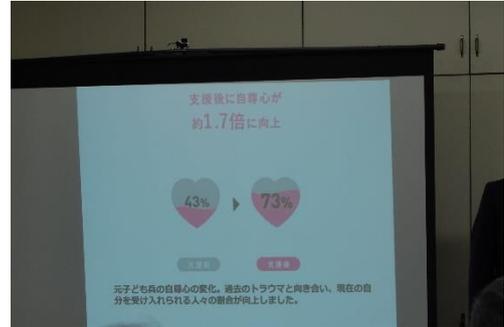
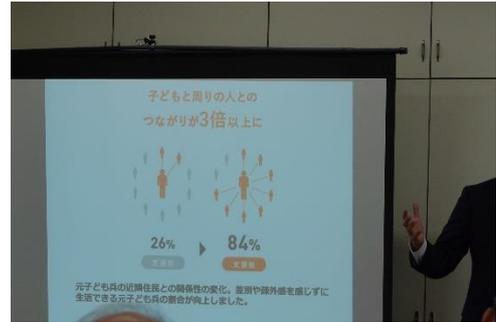
もう一つ皆さんからのご寄付の使い道を紹介させていただきます。ウガンダでの元子ども兵士の社会復帰、自立をするための支援プロジェクトにも使わせていただいています。ウガンダという国で元子ども兵士の300名の自立支援をさせてもらいました。一人当たり3年をかけます。



最初の1年半は食費や医療費を提供して私たちの施設に毎日来てもらいます。そこで職業訓練や識字教育を受けてもらいます。なぜ食費や医療費を提供するのか、支援してきた元子ども兵の約半分は少女兵です。5, 6歳で誘拐され、10代前半で強制的に妊娠・結婚させられ子供を抱えて自分の街や村に逃げ帰ってきます。子どもがおなかがいいたら誰が食べさせるのでしょうか。子どもが熱を出したら誰が医療費を払うのでしょうか。受けてもらいたい支援を受けてもらうための支援が必要です。支援を組み合わせることで支援の効果を最大限引き出せることに気付きました。給食も出し、医療費も出し、安心して平日毎日施設に通ってもらうとどうということが起こるかという真剣に勉強をします。安心だからです。心配することがないからです。心のケアもしながら1年半たった時点で一人一人に事業計画を立ててもらい、私たちが融資をします。1年半色々失敗します。アドバイスをします。合計3年の支援が終わった時、商売を続けてもいいし経験を活かして就職してもいいです。どれくらいの成果が上がったか、300名の元子ども兵士の支援を受ける前の月収が128円でした。支援後は月平均で約7000円です。ウガンダで言うと公務員と同じ月収です。



ウガンダのレストランのウェイターは月3000円です。それと比べると比較的高収入だという事がわかります。この収入が上がるにつれ変わるものがあります。周りとの関係が良くなります。深く調べてみると元子ども兵士の自尊心が上がってることがわかりました。ちなみに日本人の若者の自尊心は先進国で最下位です。



なぜ自尊心が上がったのか。それは働いているからです。誰かの役に立つ事、誰かに必要とされること、これは人間が自分の心を回復する、自分を大事にする気持ちを高めていくために最も不可欠なことという事がわかりました。

元少女兵の話ですが、元少女兵が私に教えてくれました。彼女は支援を受けて服を作る仕事を始めました。1日の売り上げを毎日丁寧に数えます。「見て下さい。今日私はこの分だけの人に必要とされました」「少しずつ人間になれているんです」誰かに必要とされることはその人の人間性を取り戻すことにつながるんだと、皆さんの支援を受けて学ぶことができました。私たちはウクライナでもアフリカの国々でもアジアでも自立支援を続けていきます。自立のための支援は中々脚光を浴びません。でもこれは日本らしい支援だと思っています。丁寧に寄り添い続ける日本人らしい支援を世界基準にしていきたいと考えています。そこに八日市場ロータリークラブの皆さんが寄り添い続けてくれることに感謝をしています。今、法人サポーターという制度があり毎月5000円で千葉の多くの皆さんにサポーターになっていただいています。一度に多額の寄付も大変うれしいのですが、コツコツご寄付を頂ける支援者を少しずつ増やしていきたいと思っています。アフリカにこういうことわざがあります。「早く目的地にたどり着くなら一人で行きなさい。遠い目的地に着きたかったら皆で行きなさい」ということわざがあります。世界平和という大きな目標だからこそたくさんの皆さんと歩んでいきたいと思っていますので良かったらお仲間になっていただけると嬉

しく思います。お時間となりましたのでこれで終わりに致します。ありがとうございました。

謝 辞・・・鈴木 英人会長



鬼丸様、本日はありがとうございました。戦争の原因が私たちの豊かな生活の中にあるんだという事に対してどのように返していくのか。一番思うのが自立支援で、ただ与えて終わりではなく、どう生きていくのかという機会を作る団体であるという風に改めて感じました。ロータリーとも通じることがあると思います。最後になります、なぜこの支援を始めたんですか？と鬼丸さんに尋ねたところ「この現実を知ってしまったから」と一言でした。今後も益々支援をしていただきたいと思ひます。本日はありがとうございました。

ニコニコボックス報告・・・大久保要治 親睦委員



- ◇鈴木 勝彦君 なんとなく
- ◇片岡 正勝君 鬼丸様ようこそおいでくださいました
- ◇青木 眞人君 久しぶりの出席です
入会記念をいただいて
- ◇林 咲江君 お弁当をいただいて
- ◇鈴木 英人君 鬼丸様をお迎えして
- ◇鶴澤 宜広君 戦略委員会でお世話になりました
- ◇萩原 幸雄君 結婚祝をいただいて
- ◇伊藤 眞帆君 主人の誕生祝をいただいて

13,000円
累計 460,500円

出席状況報告・・・斎田 忠出席委員



項目	会員総数	出席数	出席率%
本日 2/14	37名	22名	61.1%
前回 2/7	37名	23名 MU 1名	68.5%

◎出席免除者数 5名

○点 鐘 鈴木 英人会長

🌸 本日のお弁当 🌸 「柿岡屋」

今年度も匝瑛市内 10 小学校に 4 月入学される新入児童へ連絡袋を寄贈しました。
(2 月 14 日匝瑛市教育委員会へお渡ししてきました)

